

令和7年度（2025年度）事業計画

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

一般社団法人望遠鏡工業会の存続のため経常収支の赤字体質からの脱却を目指す。本年度も昨年度同様に各種事業及び費用を抜本的に見直すこととした。以下の通り事業活動を実施する。

1. 国際標準化規格関連事業について

- 1.1 国際標準化策定事業（ISO/JIS）については、日本光学工業協会に業務移管のフォローをおこなう。
SC4 国内委員会については、日本光学工業協会の管理下のもとで運営される。
- 1.2 ISO/TC172/SC1（光学及びフォトニクス）委員会に参加する。
- 1.3 JIS 原案作成委員会については、令和7年度公募区分B（ライフルスコープ）に参加する。

2. 広報活動について（ホームページ・イベント・歴史関連・検査業務）

- 2.1 ホームページ：財務省輸出入通関統計は継続する。
- 2.2 イベント：ジャパンボードフェスティバル（25周年）、CP+2026に出展する。
- 2.3 歴史資料及び検査業務については、さらなる整備と充実を図っていく。

3. 諸統計の作成整備

- 3.1 双眼鏡・望遠鏡の輸出入動向：財務省提供の輸出入統計は会員向けには会報にて、また一般消費者向けにはホームページでの掲載を継続する。

4. 関連行政機関との相互コミュニケーションの充実、関連団体の業務提携と連携

- 4.1 関係行政機関：内閣府、経済産業省、環境省、文部科学省、厚生労働省、東京都産業労働局、他とは調査依頼・情報共有・課題提案に対して迅速かつ綿密に対応する。
- 4.2 関連団体：
 - ・（一社）日本写真映像用品工業会、（一社）天体望遠鏡博物館とは賛助会員同士協力関係を維持。
 - ・日本天文協議会を通じて、国立天文台、他の天文関連団体との協力関係を進める。

5. 事業環境関連

- 5.1 技術委員会、業界活性化委員会、望友会については、理事会において在り方を検討していく。
- 5.2 設備・備品については、当面点検及び故障による修理以外は現状維持とする。
- 5.3 リース物件については、次期更新時期では見直しをはかる。
- 5.4 事務所の運用として賃貸化案件について、フォローと各種整備を進めていく。

6. 会議・会合

- 6.1 賀詞交歓会、総会・懇親会については、理事会において検討し内容の充実をはかる。

7. 検査・校正

- 7.1 依頼検査、透過率測定機貸出、検査器具の校正業務はニーズにそって事業を継続する。

8. 工業会ブランドの活用

- 8.1 オンラインサイトにおける望遠鏡工業会の意義について、検討を進めていく。

9. 異業種交流

- 9.1 アナログ光学系と電子・デジタルとの融合による業界活性化事業の検討を進めていく。